

さけ・ます資源増大対策調査事業（サクラマス幼魚回遊生態調査）

静 一 徳

目 的

サクラマスの放流条件、資源変動要因検討のため、北上期のサクラマス幼魚の回遊生態を把握する。

材料と方法

2017年3月～6月に、尻労（大型定置）、関根浜（小型定置）の2地点にて、定置網により混獲されたサクラマス幼魚を、漁業者の協力により日付別に採集した（図1）。採集した幼魚は-20℃で冷凍保存した。尻労では日別の操業の有無確認のため、操業記録の提供を受けた。冷凍サンプルは内水面研究所へ搬送し、解凍後、魚種判別と、日付別の尾数、標識（鰭カット、リボンタグ等）を確認した。また、定置網に水温ロガーを設置し、表層水温を計測した。



図1. サクラマス幼魚調査地点

結果と考察

採捕数は尻労85尾、関根浜42尾であった。尻労では4月下旬から採集を開始し、4月下旬～6月上旬に採捕があり、5月中旬に最も多かった。関根浜では3月下旬～5月下旬に採捕があり、5月中旬に最も多かった（図2）。

両地点とも、表層水温が13℃前後に達する6月上旬以降、サクラマス幼魚はほとんど採捕されなかった。尻労における操業日の表層水温とサクラマス幼魚の採捕の有無との関係を調べた結果、表層水温約13℃を境にサクラマス幼魚の採捕がなくなり、水温と北上回遊に密接な関係が確認された（図3）。

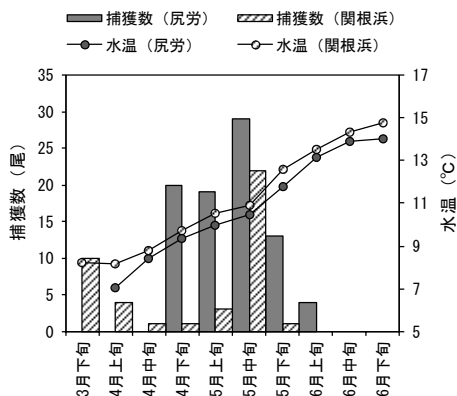


図2. サクラマス幼魚旬別採捕数

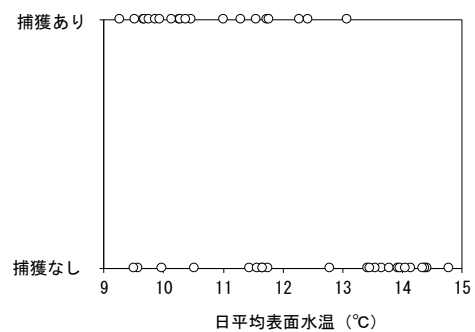


図3. 表層水温とサクラマス幼魚採捕の関係（尻労）

謝 辞

調査にご協力いただいた尻労漁業協同組合の吉田漁業部、関根浜漁業協同組合の高橋専務に御礼申し上げます。